

改過不吝

令和7年度 朝礼 (9/29) 校長の話

おはようございます。

今日の四字熟語は「改過不吝（かいかふりん）」です。あまり目にしない言葉なので、知らない人も多いかもかもしれません。訓読で読むと、「過（あやま）ちを改むるに吝（やぶさ）かならず」となります。つまり、失敗を改めるのにためらわない、失敗とわかったらすぐに直しましょう、という意味です。

皆さんは最近、失敗したことがありますか。そして、失敗とわかっていながらそのままにしまったという経験はないでしょうか。「ミスに気付いたけどそれを言い出すのが恥ずかしくて、そのままにしていたらあとで大問題になってしまった」とか「自分では無理だとわかっているのに、先延ばしにしているうちに締め切りが迫ってきて、取り返しのつかない事態になってしまった」など、よくある話だと思います。

それだけ、人は誰でも失敗するものです。失敗をするなというわけではありません。大事なのは、失敗をした後どうするかということです。

失敗をごましたり、隠したり、誰かのせいにしたりして、失敗から逃げ回る人がいます。逃げ回りたい気持ちはよくわかりますが、それはいつか大きな問題として必ずあなたに戻ってきます。因果応報という言葉がある通り、自分がまいた種は自分に返るとというのが世の中の鉄則だと、私はつくづく思います。

だから、もし失敗したらどうするか、大切なのは、それをすぐに改めるという習慣です。引き延ばせば引き延ばすほど、小さな失敗はふくらんで取り返しがつかなくなります。例えば、月まで行くロケット。打ち上げるとき、ほんのちょっと、角度でいえばたった1度、間違った方角に飛ばしたとしましょう。1度のズレは1メートル先には1.74センチメートル、目的の場所からズレます。月までの距離は約38万4千4百キロメートルありますから、計算するとなんと約6千7百キロメートルズレることになります。これは月の直径の約2倍ですから、月の位置からはるか遠く、月にかすりもしないでロケットは通り過ぎていくのです。たった1度のズレ、それだけなのにロケットは宇宙の果てに消えてしまいます。だから、もし早いうちに軌道修正をしていればズレ幅が少ないので、失敗の回復はわずかな労力で済んだはずです。

私たちはちょっとした失敗を「これくらいなら大丈夫だろう」と見て見ぬふりをしがちです。しかし、実は大きな問題が後に控えているということは肝に銘じるべきでしょう。「改過不吝（かいかふりん）」「過ちを改めるのにためらってはいけない、すぐに取り掛かりなさい」という四字熟語は、こんな宇宙規模の話にも通じる教訓といえます。

4月の新学期から半年が過ぎました。これからは後半戦です。慣れてきた時期だからこそ、少しのことにも手を抜くことがあるかもしれません。失敗は素直に認め、正しい行動に進化できる人を目指して、折り返し地点を駆け抜けていきましょう。

先生の話は以上です。